

第5節 常盤構内(山口大学工学部構内遺跡)の調査

工学部本館改修工事に伴う立会調査

調査地区 常盤構内

調査期間 平成15年7月25日、11月13・23日

調査結果 工学部本館改修工事に伴い、建物の改修工事と配管工事が計画された。建物改修工事は耐震対策として、建物周囲、東・西・南側に外壁を新設するもので、東側は幅約2m、長さ約14m、南側は幅約4m、長さ約85m、西側は幅約2m、長さ約7mの範囲で掘削が行われた。A地点は現地表下約120cmが造成土で、約120～170cmが地山である黄褐色粘質土であった。B地点では、現地表下約140cmが造成土、約140～170cmが地山である黄褐色粘質土で、A地点以北とC地点以西では攪乱が激しく、掘削基底面である現地表下170cmで、部分的に地山を確認したのみである。また、建物南側では、ロータリー新設に伴い本館と噴水の間の2ヶ所について、柱の基礎部分として2m×2mの範囲、2ヶ所について現地表下約90cmまで掘削が行われた。しかし、いずれも造成土の範囲内であった。

配管工事については、光ケーブル新設工事に伴い、メディア基盤センター西側で幅約1m×長さ約4mの範囲、排水管新設工事に伴い、噴水の東西2ヶ所について幅約1m、長さ約15mの範囲で掘削が行われた。現地表下約50～80cmまで掘削した結果、D地点でのみ、現地表下約55～75cmで黄褐色粘質土の地山を確認した。

以上により、本館付近は構内造成時の削平が激しいことから、過去に埋蔵文化財が存在したとしてもすでに消失していると考えられる。

調査面積 約428m²

調査担当 田畑直彦



図13 調査区位置図



写真9 B地点土層断面(北東から)